

環境活動レポート

平成 29 年度(H29.5~H30.4)版

作成：平成 30 年 5 月 10 日

For the future earth



栗原興業株式会社

URL:<http://www.kuriharakogyo.com/>

1. はじめに

エコアクション 21 に取組んで 12 年半になりました。本業である収集運搬事業はこれまで着実に拡大してきました。リサイクル量も前年度比で 15.2%拡大となり過去最高となりました。一般廃棄物の普通ごみは年々減少しており前年度比で 4.0%減少となりました。一方、二酸化炭素排出量は前年度比 9.2%増加しました。単発の粗大ごみの受注が増加したため、収集運搬車両の燃料使用効率が悪化していると考えられ、今後の課題です。

2. 環境方針

当社は、「人材育成」「迅速柔軟」「清潔整頓」「法律遵守」の 4 つを柱に、事業系一般廃棄物、産業廃棄物等の収集運搬事業を行い、地域社会に貢献していきます。また、当社の事業活動により発生する環境負荷を低減するとともに循環型社会構築のため、以下の活動に取り組んでいきます。

- (1) 当社に関する環境関連法規制等を遵守します。
- (2) 以下の環境目標に取り組み、継続的改善に努めます。
 - (a) 顧客から排出される廃棄物のリサイクルを推進します。
 - (b) 収集運搬車両が使用する燃料の使用効率の向上を図ります。
 - (c) グリーン購入率の向上を図ります。
 - (d) 電力使用量を削減します。
- (3) 以下の環境負荷や指標の管理幅を設定し、維持管理に努めます。
 - (a) 収集運搬車両の燃費
 - (b) 上水使用量
- (4) 当社の環境方針は、社内に掲示し、全ての従業員に周知します。
また、環境活動を「環境活動レポート」に記載し公表します。

制定：2007 年 1 月 1 日

改定：2016 年 5 月 1 日

栗原興業株式会社

代表取締役 栗原和由

3. サービス方針

私たちは、安心と質の高いサービスをご提供するため、「人材育成」「迅速柔軟」「清潔整頓」「法律遵守」の 4 つを柱に日々努めております。

【人材育成】

言葉遣い、身だしなみ、元気な挨拶などのマナー教育を実施し、「おもいやりの心」と笑顔の接客を心がけています。

【迅速柔軟】

お客様のさまざまなニーズをリアルタイムで把握し、迅速かつ柔軟にお応えする事を心がけています。

【清潔整頓】

この業のプロフェッショナルとしての自覚を持ち、運搬車両やお客様の廃棄物保管場所などをいつもキレイにし、クリーンな状態にすることを心がけています。

【法律遵守】

事業の不透明な部分をなくすために、お客様への情報の提供や、経営管理システムの整備を徹底しています。法律遵守を徹底することによって、安心と安全をご提供いたします。

4. 組織の概要

(1)法人設立年月日 昭和 45 年 5 月 2 日

(2)資本金 1,000 万円

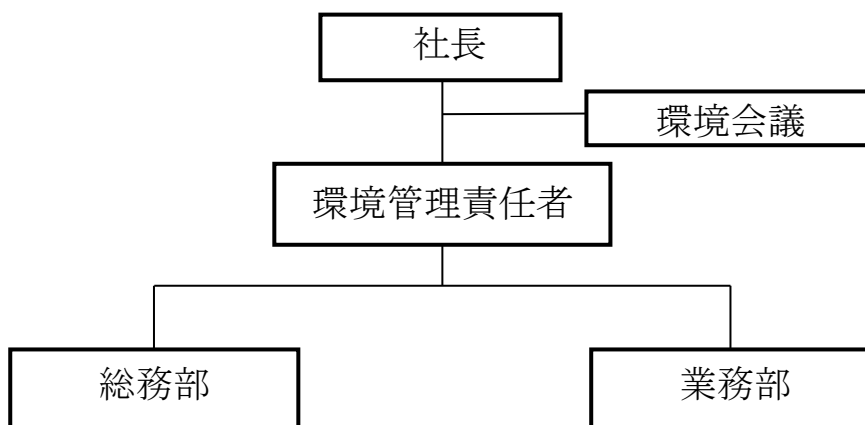
(3)売上高

平成 27 年度：145 百万円

平成 28 年度：138 百万円

平成 29 年度：155 百万円

(4)組織図



(5)事業所名及び代表者名

事業所名：栗原興業株式会社

代表者名：栗原和由

(6)所在地

本 社 ：埼玉県朝霞市泉水 3-2-3

第一駐車場：埼玉県朝霞市溝沼 781-2

第二駐車場：埼玉県和光市新倉 4 丁目 1850

東京支店 ：東京都板橋区三園 2-16-1-402

(7)環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者氏名：栗原和代

担当者連絡先：埼玉県朝霞市泉水 3-2-3

(電話)048-461-4906

(FAX)048-461-2626

(8)事業活動の内容

(a)一般廃棄物(普通ごみ)の収集運搬 (保管・積替え及び積置きを除く)

①東京都特別区許可番号 第47号

許可年月日：平成29年2月1日

許可期間：平成29年2月1日から平成31年1月31日

②朝霞市

許可年月日：平成29年3月8日

許可期間：平成29年4月1日から平成31年3月31日

(b)産業廃棄物の収集運搬の許可の内容

廃棄物の種類	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	陶磁器くず・コンクリートくず	がれき類	許可番号 許可年月日 許可の有効年月
東京都 ★ ☆	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13-00-010227
														*1	H3.10.1
														*2	H30.9.30
埼玉県 ★	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	01102010227
		*2		*2	*2	*1						*2	*1	*1	H5.10.29
						*2							*2		H34.10.28
神奈川県 ★	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	01400010227
	*3	*2		*2	*2	*1						*2	*1	*1	H24.9.21
		*3		*3	*3	*2							*2		H36.9.20

*1：石綿含有廃産業廃棄物を含む

*2：水銀使用製品産業廃棄物を含む

*3：水銀含有ばいじん等を含む

☆東京都：優良性基準適合業者認定

★埼玉県、東京都、神奈川県：環境省優良産廃処理業者認定

(c)特別管理産業廃棄物の収集運搬

廃棄物の種類	廃油 (揮発油類、 灯油類 軽油類)	廃酸 (pH2.0 以下 のもの)	廃アルカリ (pH12.5 以 上のもの)	感染性 廃棄物	許可番号 許可年月日 許可の有効年月
★東京都	○	○	○	○	13-56-010227
					H19.10.9
					H35.11.24
★埼玉県	○	○	○	○	01152010227
					H19.10.5
					H35.10.10
★神奈川県	○	○	○	○	01450010227
					H24.9.21
					H36.9.20

★埼玉県、東京都、神奈川県：環境省優良産廃処理業者認定

(d)施設等の状況

①運搬車両（9台）

- ・大型パッカー車 2台
- ・4トンパッカー車 2台
- ・3トンパッカー車 1台
- ・4トンアーム車 1台
- ・1.5トン平ボディ車 1台
- ・保冷車 2台

②その他（1台）

- ・2トンフォークリフト 1台



(e)処理実績(収集運搬量)

単位 kg

収集運搬量	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
産業廃棄物	392,160	354,920	408,783
一般廃棄物	1,985,370	2,072,470	2,001,230

(f)廃棄物処理料金

個別見積による(見積料は無料)。

(g)事業の規模

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
従業員(人)	9	10	10
駐車場敷地面積(m ²)	750	750	750

5. エコアクション 2.1 認証・登録範囲

(1)対象事業所

本社、第一駐車場、第二駐車場、東京支店

(2)対象事業活動

一般廃棄物収集運搬

産業廃棄物収集運搬

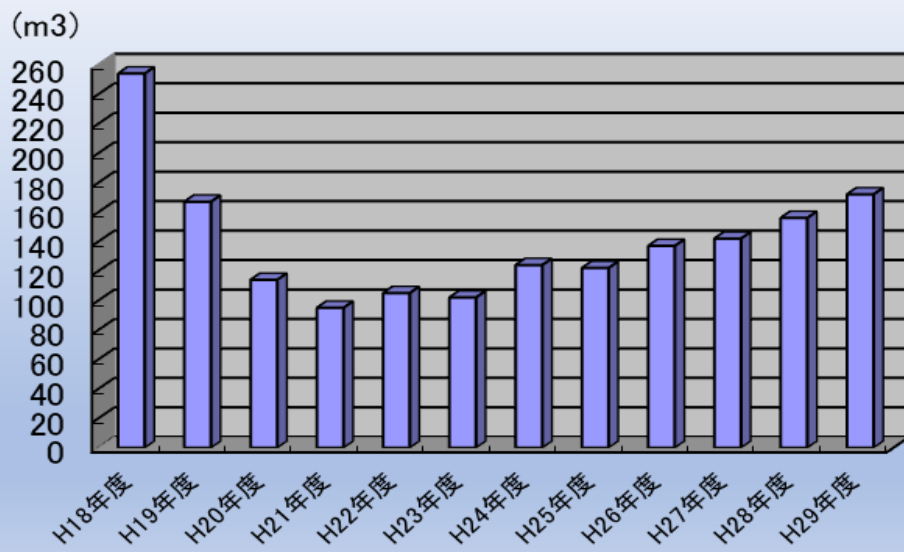
(特別産業廃棄物収集運搬は実績がないため、認証・登録範囲に含まない)

6. 環境への負荷の状況

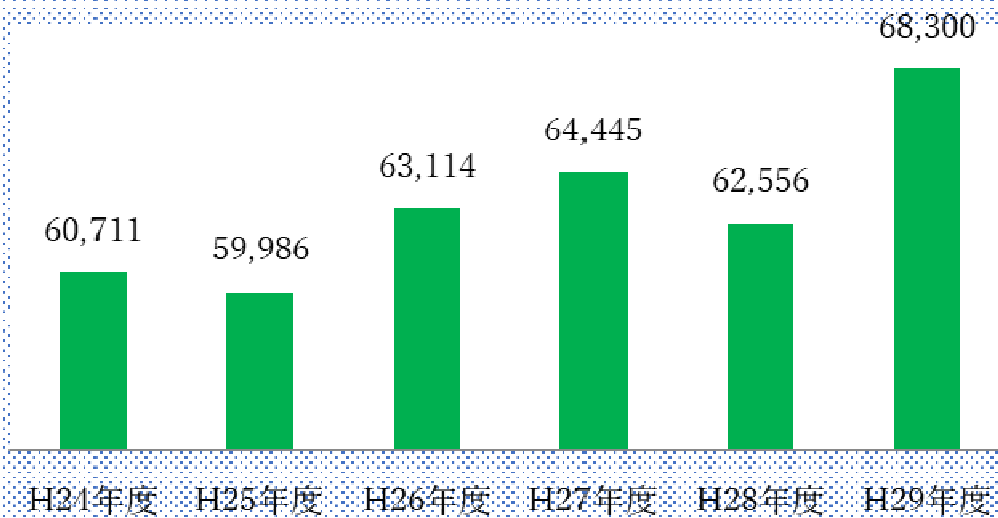
		単位	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
総エネルギー投入量	購入電力	MJ	50,202	56,985	61,084
	軽油	MJ	853,028	812,625	839,420
	ガソリン	MJ	47,099	54,924	65,846
水資源投入量／総排水量	上水	m ³	142	156	172
二酸化炭素排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	64,445	62,556	68,300

注1) 電力使用による二酸化炭素排出量の算出は、排出係数 0.525(kg-CO₂/kWh)を使用。

上水使用量の推移



単位：kg CO₂排出量の推移



電力使用による二酸化炭素排出量の排出係数は、0.525(kg-CO₂/kWh)を使用。

7. 平成 29 年度～平成 31 年度環境目標・環境活動 3 年計画

H30 年 5 月 10 日の代表者による全体の評価と見直しを受けて、平成 30 年度～平成 31 年度環境目標・環境活動計画を下表の通り見直した。(二重取消線：削除、斜字：変更)

環境目標・環境活動		平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
廃棄物収集量のリサイクル量の拡大 基準：平成 28 年度 1,080 トン	目標	基準比 1%拡大 1,091 トン	基準比 2%拡大 1,102 トン	基準比 3 拡大 1,112 トン
	環境活動	①分別・リサイクル提案 ②外部情報報告書の活用 ③新規顧客の開拓 ④ドライバーの営業力強化	①分別・リサイクル提案 ②外部情報報告書の活用 ③新規顧客の開拓 ④ドライバーの営業力強化	①分別・リサイクル提案 ②外部情報報告書の活用 ③新規顧客の開拓 ④ドライバーの営業力強化
二酸化炭素排出量／収集運搬量の削減 基準： 平成 28 年度 24.5kg-CO ₂ /トン	目標	基準比 1 %削減 24.3kg-CO ₂ / トン CO ₂ 排出量:58, 612 kg 収集運搬量: 2, 412 トン	基準比 2%削減 24.0kg-CO ₂ / トン CO ₂ 排出量:57, 504 kg 収集運搬量: 2, 396 トン	基準比 3%削減 23.8kg-CO ₂ / トン CO ₂ 排出量:56, 644 kg 収集運搬量:2, 380 トン
	環境活動	①アイドリングストップ・エコドライブ ②燃費グラフ作成 ③収集ルート、収集時刻の見直し ④収集回数の適正化 ⑤積載効率の向上 ⑥低燃費車の導入 ⑦車両整備 ⑧パッカー車巻込時エンジン回転数抑制 ⑨帰庫便の有効活用	①アイドリングストップ・エコドライブ ② 燃費グラフ作成 ③収集ルート、収集時刻の見直し ④収集回数の適正化 ⑤積載効率の向上 ⑥低燃費車の導入 ⑦車両整備 ⑧パッカー車巻込時エンジン回転数抑制 ⑨帰庫便の有効活用	①アイドリングストップ・エコドライブ ② 燃費グラフ作成 ③収集ルート、収集時刻の見直し ④収集回数の適正化 ⑤積載効率の向上 ⑥低燃費車の導入 ⑦車両整備 ⑧パッカー車巻込時エンジン回転数抑制 ⑨帰庫便の有効活用
購入件数ベースでのグリーン購入率向上 基準：平成 28 年度 93.8%	目標	基準比 0.4 ポイント向上 94.2%	基準比 0.8 ポイント向上 94.6%	基準比 1.2 ポイント向上 95%
	環境活動	①グリーン購入対象品リスト作成 ②グリーン購入対象品の拡大	①グリーン購入対象品リスト作成 ②グリーン購入対象品の拡大 ③購入品の調査徹底	①グリーン購入対象品リスト作成 ②グリーン購入対象品の拡大 ③購入品の調査徹底

電力使用量削減 基準：平成 29 年度 全社：6,214kWh 本社：3,139kWh 駐車場：3,075kWh	目標	平成 28 年度基準比 1%削減 全社：5,739kWh 本社：2,886kWh 駐車場：2,853kWh	平成 29 年度基準比 1%削減 全社：6,152kWh 本社：3,108kWh 駐車場：3,044kWh	平成 29 年度基準比 2%削減 全社：6,090kWh 本社：3,076kWh 駐車場：3,014kWh
	環境活動	①節電	①節電 ②LED 照明へ変更	①節電
その他の環境活動		①運搬車両燃費の維持活動 ②上水使用量の維持活動 ③地域の清掃活動 ④エコキャップ運動 ⑤二酸化炭素排出量の監視 ⑥社内教育の実施	①運搬車両燃費の維持活動 ②上水使用量の維持活動 ③地域の清掃活動 ④エコキャップ運動 ⑤二酸化炭素排出量の監視 ⑥社内教育の実施	①運搬車両燃費の維持活動 ②上水使用量の維持活動 ③地域の清掃活動 ④エコキャップ運動 ⑤二酸化炭素排出量の監視 ⑥社内教育の実施

8. 環境目標・環境活動の実績と評価

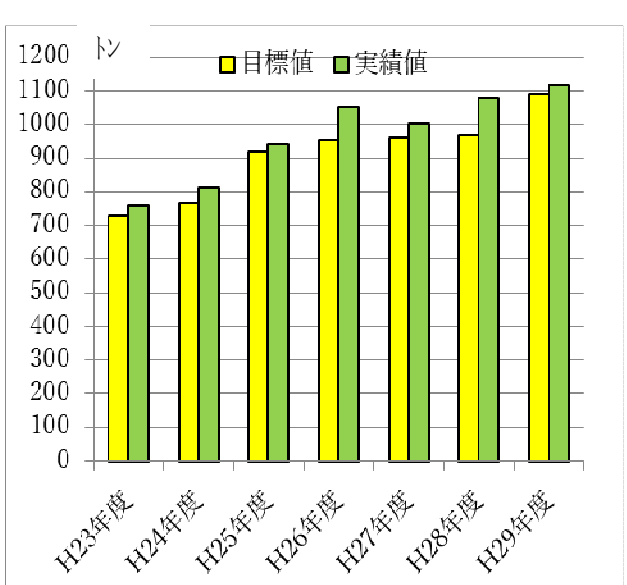
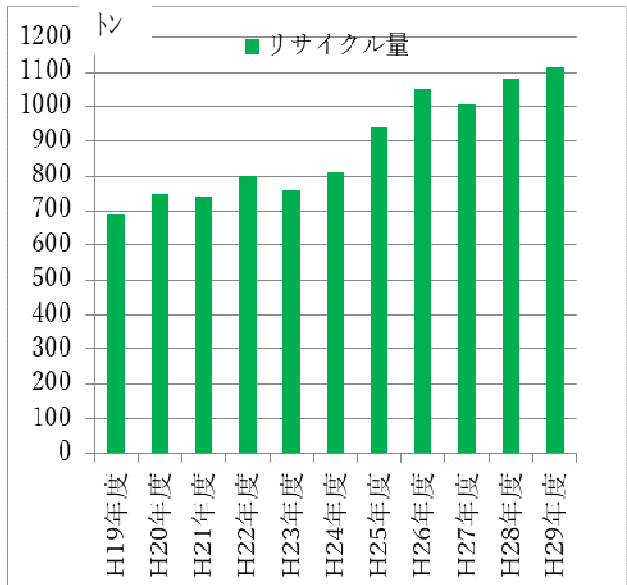
(1)環境目標の実績と評価

環境目標 3 年計画 (H29 年度～H31 年度)	H29 年度計画	H29 年度結果	評価
廃棄物収集量のリサイクル量の拡大 基準：平成 28 年度 1,080 トン	基準比 1%拡大 1,091 トン	基準比 3.3%拡大 1,116 トン	○ 目標比 2.3%拡大となり、目標達成。木くずの増加が目標達成に寄与した。
二酸化炭素排出量／収集運搬量の削減 基準： 平成 28 年度 24.5kg-CO ₂ /トン	基準比 1 %削減 24.3kg-CO ₂ / トン CO ₂ 排出量:58,612 kg 収集運搬量: 2,412 トン	基準比 5.3%増加 25.8kg-CO ₂ /トン CO ₂ 排出量:62,086 kg 収集運搬量:2,410 トン	× 目標比 6.2%増加となり、目標未達。単発の粗大ごみの受注増加による影響大であった。

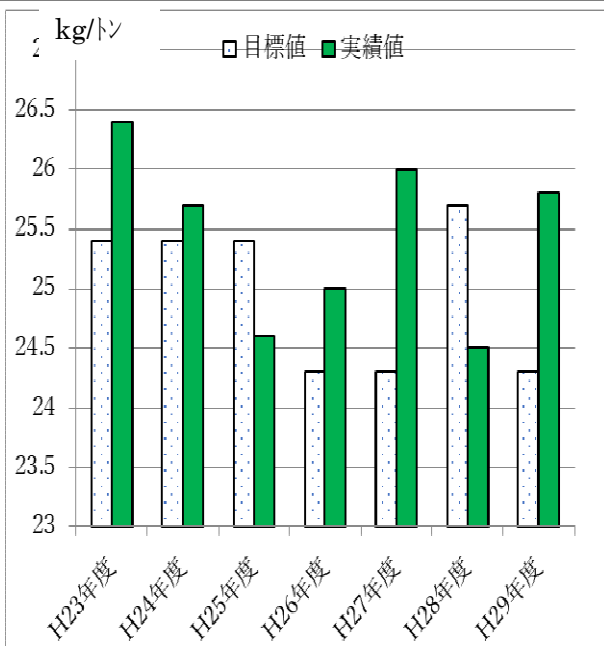
<p>購入件数ベースでのグリーン購入率向上 基準：平成 28 年度 93.8%</p>	<p>基準比 0.4 ポイント向上 94.2%</p>	<p>基準比 18.3 ポイント低下 75.5%</p>	<p>× 目標比 18.7 ポイント低下し、目標未達。事務用品の使いやすさ、コストが優先され、大幅な目標未達となった。</p>
<p>電力使用量削減 基準：平成 28 年度 全社：5,797kWh 本社 2,915kWh 駐車場 2,882kWh</p>	<p>基準比 1%削減 全社：5,739kWh 本社：2,886kWh 駐車場：2,853kWh</p>	<p>【全社】 6,214 kWh 基準比 7.2%増加 【本社】 3,139 kWh 基準比 7.7%増加 【駐車場】 3,075kWh 基準比 6.7%増加</p>	<p>× 全社では、目標比 8.3%増加で目標未達 本社では、目標比 8.8%増加で目標未達 駐車場では、目標比 7.8%増加で目標未達となった。電化製品、OA 機器の増加による影響大であった。</p>

【特記事項】 自社廃棄物の排出が一般廃棄物である可燃ごみのみで、排出量も少量であるため、廃棄物排出量削減、また化学物質を使用していないため、化学物質使用量削減には取り組んでおりません。上水使用量は、2010 年度までは目標に取り上げていましたが、これ以上の削減が難しいところまで削減されたと判断し、2011 年度からは維持管理項目にしています。

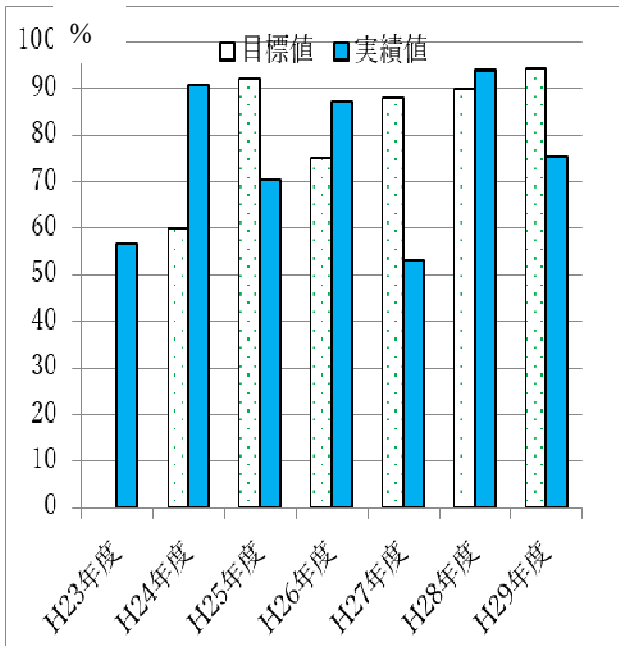
リサイクル量の拡大



収集運搬量 1トンあたりの二酸化炭素排出量削減



グリーン購入率向上

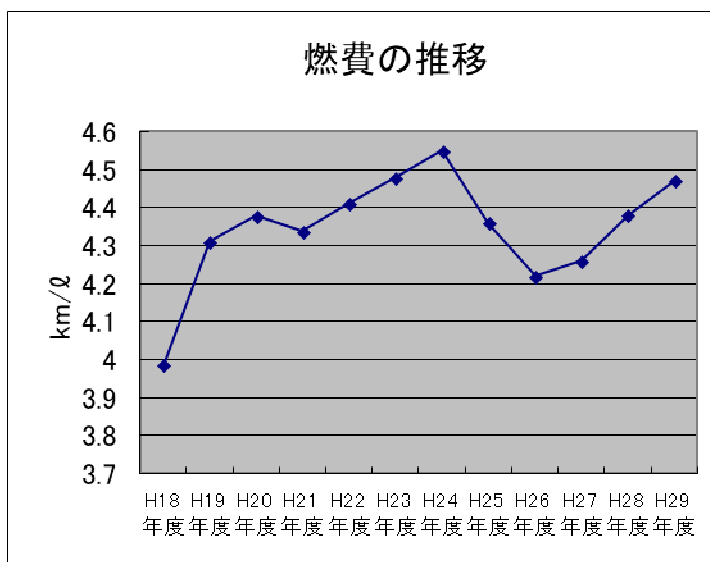


(2)環境活動の結果と評価、次年度の取組

環境活動内容		取組結果、次年度の取組	評価
廃棄物収集量の リサイクル量の 拡大	分別・リサイクル提案	顧客に対し、随時リサイクル提案を行っている。次年度も継続する。	5
	外部情報報告書の活用	外部情報報告書が従来同様約 300 件発行。臨時収集の報告が多く受注拡大に繋がっている。次年度も継続する。	5
	新規顧客の開拓	新規顧客 3 件開拓した。次年度も継続する。	4
	ドライバーの営業力強化	外部情報報告書の活用により強化された。次年度も継続する。	5
収集運搬量 1 トン あたりの二酸化 炭素排出量削減	アイドリングストップ・エコドライブ	燃費グラフにより意識付けを行い、効果が出てきた。	5
	燃費グラフ作成	アイドリングストップ・エコドライブが定着した。次年度からは燃費グラフ作成は中止する。	5
	収集ルート、収集時刻の見直し	帰庫便の有効活用として 1 ルートルーチン化は継続している。次年度も継続する。	5
	収集回数の適正化	収集回数を適宜見直しているが、実績はなかった。活動は次年度も継続する。	1
	積載効率の向上	毎日、積載効率が良くなるよう配車している。次年度も継続する。	5
	低燃費車の導入	低燃費車導入はなかった。次年度以降も検討する。	1

	車両整備	車両の老朽化が目立つようになっており、更新の時期に来ている。次年度以降順次更新する予定。	5
	パッカー車巻込時エンジン回転数抑制	燃費グラフでの意識付けとの相乗効果で、エンジン回転数抑制にも注意が行くようになった。次年度も意識付けし、継続する。	4
	帰庫便の有効活用	1ルートをルーチン化し、継続実施中。	5
購入件数ベースでのグリーン購入率向上	グリーン購入対象品リスト作成	新規追加なしで低調である。次年度も継続する。	1
	グリーン購入対象品の拡大	新規購入品なしで低調である。次年度も継続する。	1
電力使用量削減	節電	節電は行っているが、OA機器の導入、冷蔵庫等の設置等により電力使用量増加に歯止めがかからず、次年度以降は、目標値を下方修正するが、LED照明への変更による効果に期待する。	4
その他の環境活動	運搬車両燃費の維持活動(4.2km/l以上)	単発の受注での積荷の軽量化により燃費向上につながったと考えられ、4.47km/lで前年より2.1%向上した。次年度も監視を継続する。	5
	上水使用量の維持活動(12 m ³ /月 以下)	雨水貯留槽撤去の影響が考えていたより大きく、上水使用量は前年度に比べ10.3%増え172 m ³ となった。次年度は、現状に合わせ14 m ³ /月で維持する。	4
	地域の清掃活動	今年度は実施できなかった。	1
	エコキャップ運動	前年度より12%減少し、年間12,900個。次年度も継続する。	5
	二酸化炭素排出量の監視	単発受注の増加により収集運搬車両の燃料使用量が増加し、前年度比9.2%増加した。次年度も監視を継続する。	5
	社内教育の実施	教育計画書に従って計画通り実施した。次年度も継続する。	5

(評価点) 5点:90%以上 4点:70%以上 3点:50%以上 2点:30%以上 1点:30%未満
(スケジュールに対する進捗度等の対計画比で評価する)



9. 代表者による全体の評価と見直し

H30年5月10日に、社長による全体の評価と見直しを行い、環境方針、環境経営システムは変更の必要性なしとなった。環境目標については、達成手段も含め H30～31 年度の計画を見直すことになった。また、その他の環境活動は継続することになった。環境目標・環境活動及びその他の環境活動の詳細について、次の通り社長から指示があった。

(1) 廃棄物収集量のリサイクル量の拡大

これまで拡大を続けていた古紙類が前年度比 17.8 トン(2.5%)減少したが、注力している建設業からの木くずの増加(前年度比 15.8 トン増加)、新規で収集を始めた汚泥(15.4 トン)が貢献し、目標を達成した。H30、31 年度目標は昨年計画した 3 か年計画通りそれぞれ H28 年度実績比で 2%、3%拡大とする。

(2) 収集運搬量 1 トンあたりの二酸化炭素排出量削減

H28 年度より達成手段とした帰庫便の有効活用は 1 ルートで引き続き実施されているが。その他に、収集ルートや収集時刻の見直しによる、有効活用は進まなかった。一方、単発の受注増加により、効率が低下し、目標未達となった。今後、単発受注の収集ルートや収集時刻の見直しによる効率アップを達成手段に取り上げ、目標値そのものは、H30、31 年度目標は昨年計画した 3 か年計画通りそれぞれ H28 年度実績比で H30 年度 2%、H31 年度 3%削減とする。

(3) 購入件数ベースでのグリーン購入率向上

H28 年度は購入件数 16 件中グリーン購入が 15 件と、ようやくグリーン購入が定着し目標達成したが、H29 年度は購入件数 28 件中グリーン購入が 21 件で、事務用品の使いやすさ、コストが優先され大幅な目標未達となった。H30、31 年度目標は、購入品の調査を徹底することにより、昨年計画した 3 か年計画通りそれぞれ 28 年度実績比で H30 年度 0.8 ポイント、H31 年度 1.2 ポイント向上とする。

(4) 電力使用量削減

H28 年度の本社の改築、事務員の増員、駐車場では電化製品の設置などに伴う電力使用量増加分を節電だけで削減するのが難しく、目標未達となったものと考えられる。H30、31 年度目標は H29 年度実績を基準に H30 年度 1%、H31 年度 2%削減とする。

(5)その他の環境活動

H29年度に引き続き運搬車両燃費、及び上水使用量の維持活動、地域の清掃活動、エコキャップ運動、社内教育の実施、二酸化炭素排出量の監視活動に取り組む。

10. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

H29年11月及びH30年5月に、それぞれの直近6ヶ月分における環境関係法令等の遵守状況を確認した結果、環境関係法令等への違反は無い。

なお、過去3年間関係当局からの違反等の指摘はなく、また訴訟、苦情等も無い。